CANYCOM

電動小型運搬車

SC30

取扱説明書

・ご使用の前に必ずお読みください。

3578 6103 000

株式会社 筑水キャニコム

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、ＤＣパワーユニット・バッテリパック・充電器の取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は不整地用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービスについて

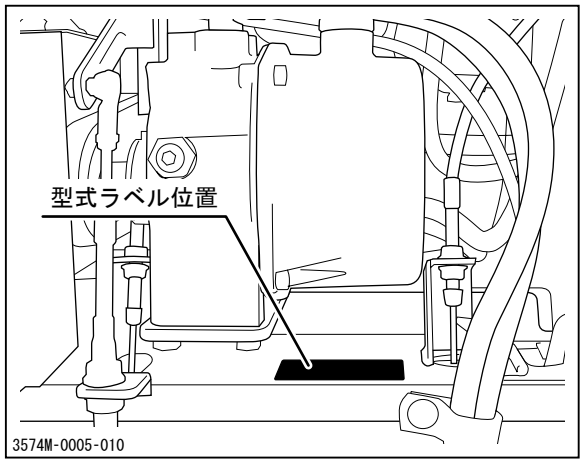
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞11ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ･････････････ 1
安全運転・作業のための心得 ･････････････････････････ 2
運転前の心得 ･･･ 2
運転時の心得 ･･･ 4
積載時の心得 ･･･ 6
駐車時の心得 ･･･ 7
整備時の心得 ･･･ 7

２．各部の名称とはたらき　8

各部の名称とはたらき ･････････････････････････････････ 8
ＤＣパワーユニット ･････････････････････････････････････ 9
バッテリ充電器 ･･･10
バッテリパック ･･･10

３．製品仕様　11

本製品の仕様 ･･･ 11
付属品明細 ･･ 13

４．運転と操作　14

運転前の準備 ･･･ 14
始業点検 ･･14
バッテリパックと充電器の取り扱い ･･････････････････････14
バッテリパックの充電 ･･････････････････････････････････16
ハンドル角度の調節 ････････････････････････････････････19

運転のしかた ･･･ 20
始動のしかた ･･20
運転のしかた ･･23
停止のしかた ･･26
変速のしかた ･･27
駐車のしかた ･･28

作業のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
ダンプ操作 ・・29
荷台落下防止板の操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

５．保守・お手入れ 32

定期点検表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
ＤＣパワーユニットの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
車両の点検 ・・33
給油・給水一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
給脂・注油一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
消耗部品（交換部品）一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
カバーの取り外しかた・取り付けかた ・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
フェンダー ・・37
ベルトカバー ・・・37

ＤＣパワーユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
走行装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

クローラの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
トランスミッションオイルの交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
走行Ｖベルトの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
ブレーキの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
サイドクラッチの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
給脂 ・・44

油圧装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

パワーパッケージオイルの点検・補給 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
油圧Ｖベルトの点検・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

荷台装置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

給脂・注油 ・・47

使用後のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

通常使用後のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
寒冷期使用後のお手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

長期保管のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

６．不具合発生時の処置　50

不具合診断表 ･････････････････････････････････････ 50

７．本製品の移送　53

トラックへの積み降ろし要領 ･･････････････････････････ 53
吊り下げ要領 ･････････････････････････････････････ 54

保証書

本書の巻末に添付
※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・ＤＣパワーユニット取扱説明書
・バッテリパック取扱説明書
・バッテリパック充電器取扱説明書
※本書とあわせて必ずお読みください。

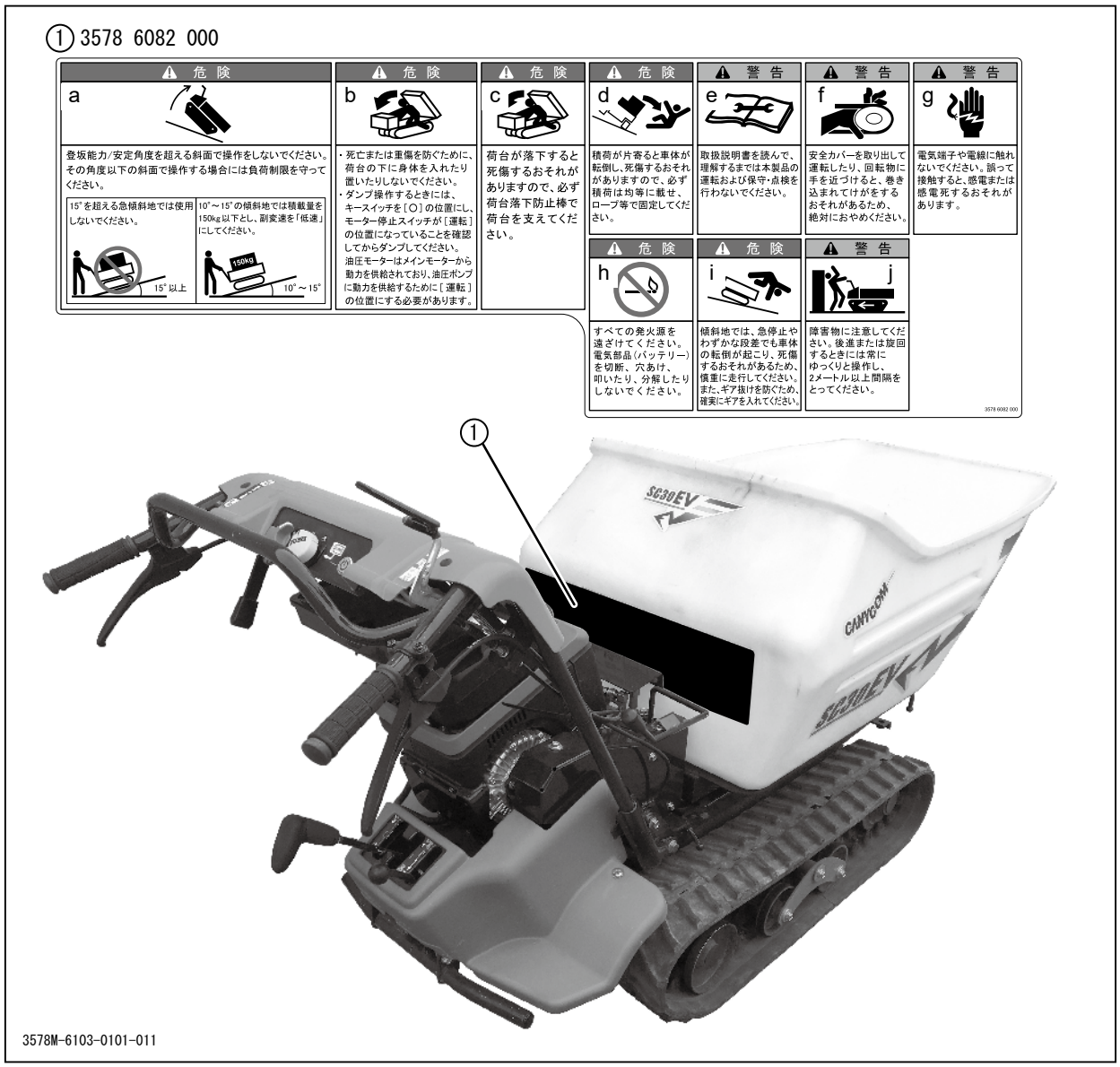
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
　また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



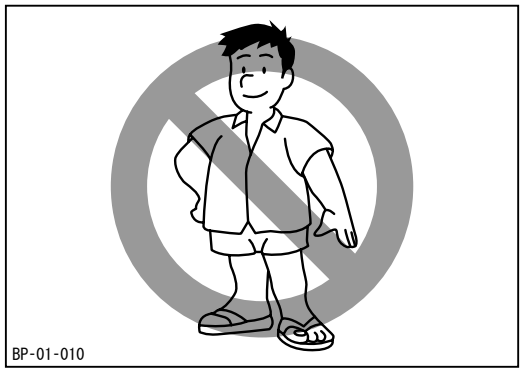
1　3578 :6082 000

a. 転倒の危険。傾斜地での使用の際は、最大登坂角度（最大登坂能力）、最大安定角度以下で使用してください。また、斜面の傾斜角度によっては、積載量を制限してください。（15°以上の斜面では使用禁止、10～15°の斜面では、最大積載150kg まで。）
b. 荷台への挟まれの危険。作業時は荷台の下に体を入れないでください。
c. 荷台への挟まれの危険。整備などで、荷台の下で作業をする場合は、荷台落下防止棒で荷台を固定してから作業を行ってください。
d. 転倒の危険。荷物が偏ると転倒する危険があります。荷物は均等に積載し、確実に固定してください。
e. 取扱説明書を読むこと。
f. 手などの挟まれの警告。ベルトカバーを取り外して運転しないでください。整備時などでベルトカバーを外した時はＤＣパワーユニットを稼働させないでください。
g. 感電警告。バッテリやＤＣパワーユニットなどの電器端子や電線に触れると感電する恐れがありますので、それらには絶対に触れないでください。
h. 発火・爆発警告。本製品はリチウムイオンバッテリーを使用しており、バッテリパックへの衝撃は発火や爆発の可能性があります。
i. 暴走警告。傾斜地走行中にギアが抜けると暴走する危険があります。変速は停車した状態で確実に行って下さい。
j. 後退・旋回時の挟まれ警告。後退時や旋回時は車両に挟まれないように後方や周囲を確認しながら、いつでも停止できるように低速で走行してください。

安全運転・作業のための心得

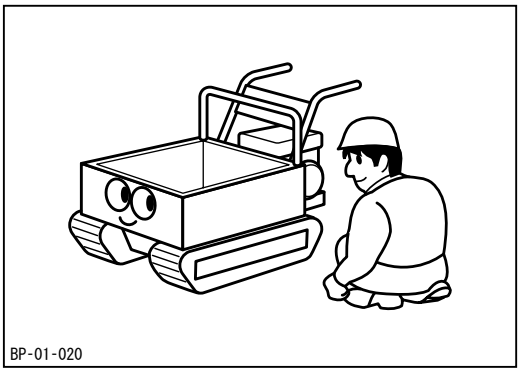
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転・安全作業を心がけてください。

運転前の心得



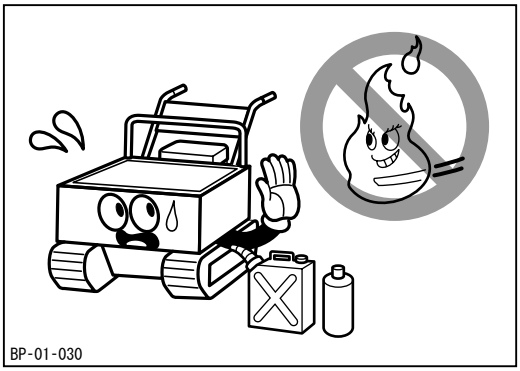
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。



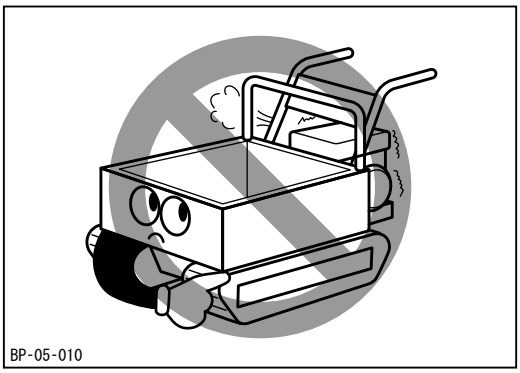
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。



火気厳禁・高温注意

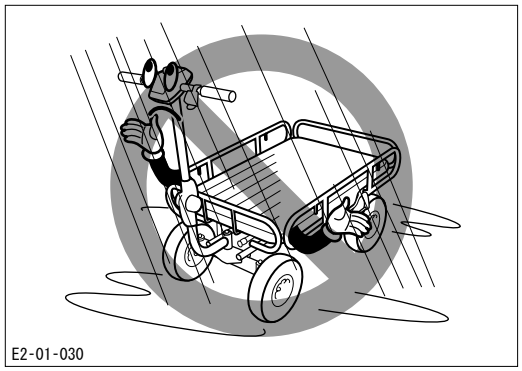
バッテリの充電中ならびに油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。
また、高温になる場所や火気の近くでの充電は行わないでください。



感電注意

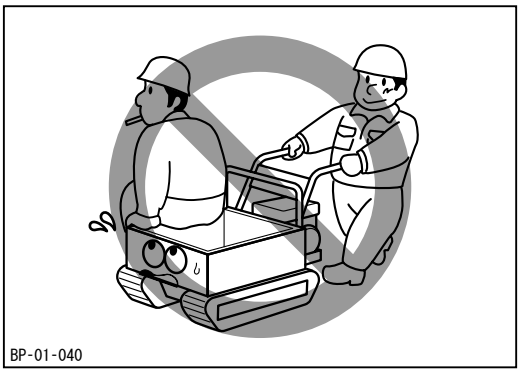
点検および作業時は必ずメインスイッチを[ＯＦＦ]にしてください。

運転時の心得



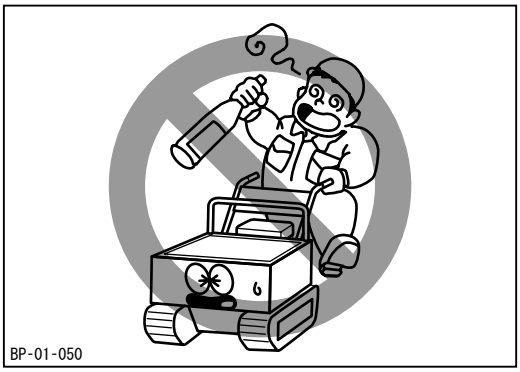
感電注意

雨天、水溜りや水没のおそれのある場所での使用はしないで下さい。また、水濡れしないようにしてください。



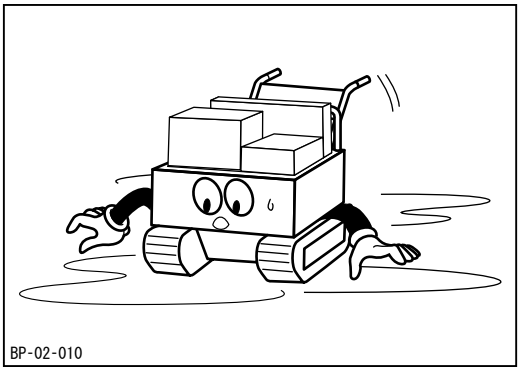
乗車禁止

本製品は乗車できません。また、人を乗せての運転も行わないでください。



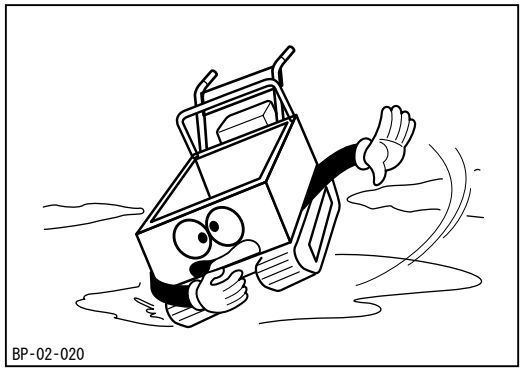
無謀運転禁止

飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。



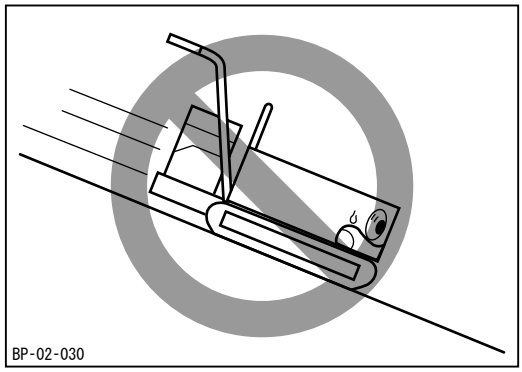
安全速度遵守

発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。



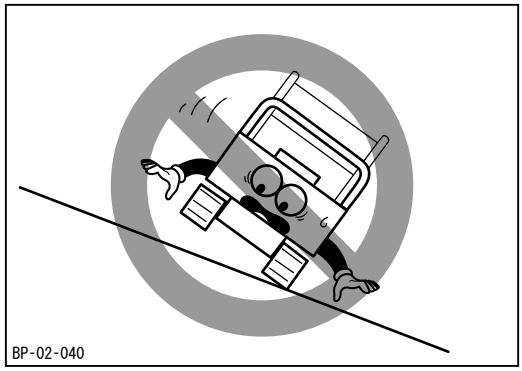
急発進・急加速・急旋回・急停止の禁止

急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



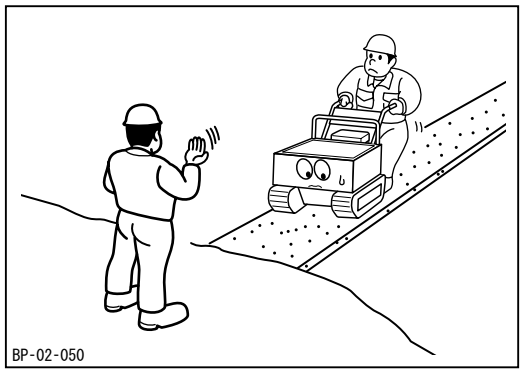
傾斜地での注意

傾斜地では副変速を「低速」にし、低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



斜面の横断、旋回禁止

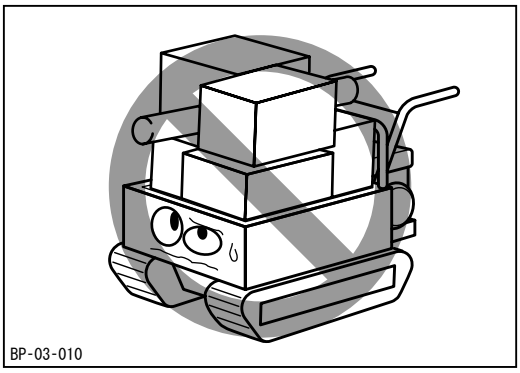
斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
また、斜面では旋回しないでください。車両が逆旋回したり、スリップや転倒をしたりするおそれがあります。



危険な場所では誘導者の指示に従う

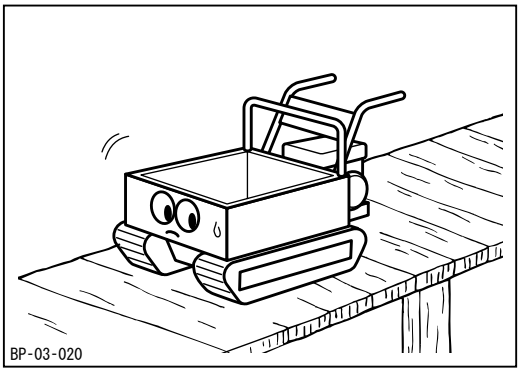
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得



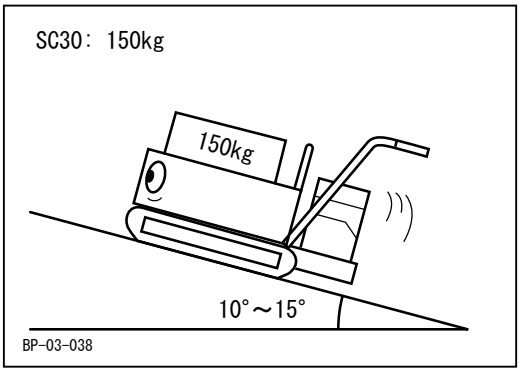
過積載禁止

本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。



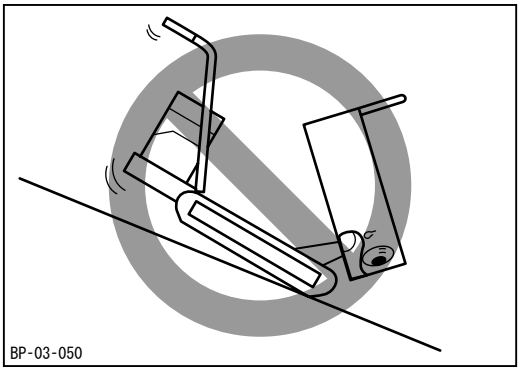
制限重量に注意

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



傾斜地での積載量に注意

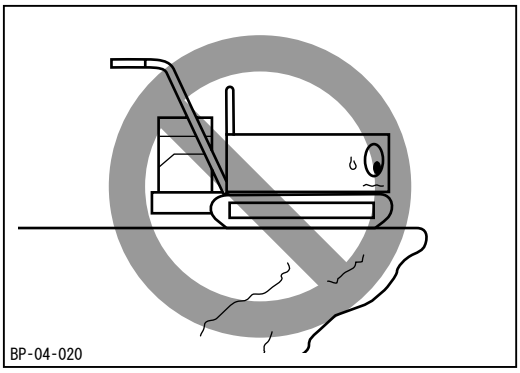
10°～15°の傾斜地では、積載量を150kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。



傾斜地でのダンプ操作禁止

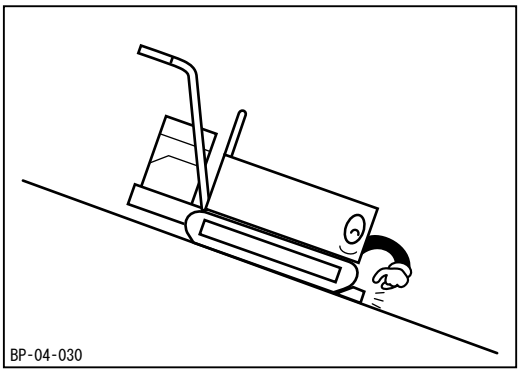
傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。車両が転倒するおそれがあります。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。

駐車時の心得



危険な場所での駐停車禁止

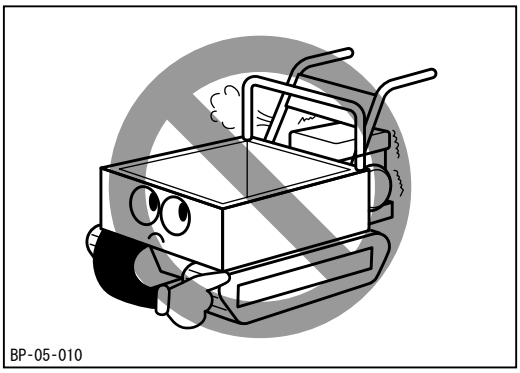
駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

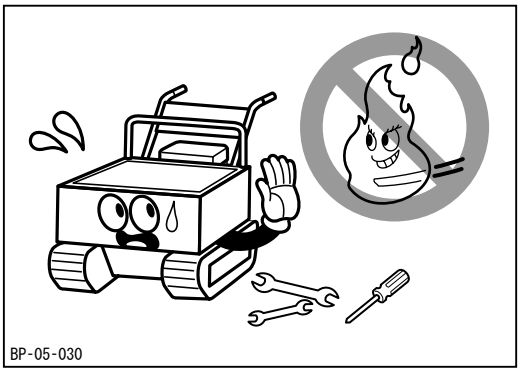
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。

整備時の心得



感電注意

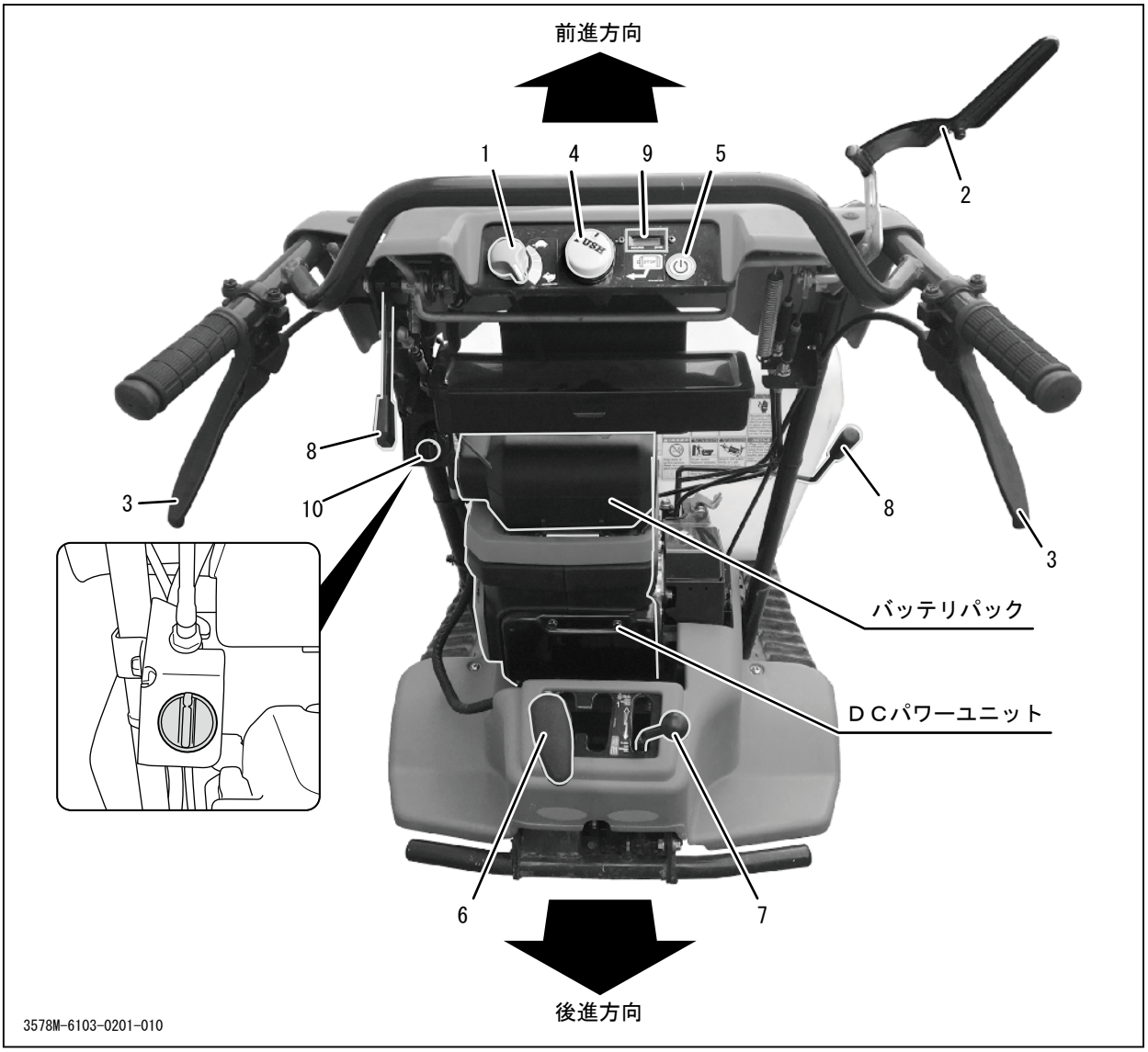
点検および作業時は必ずメインスイッチを[ＯＦＦ]にしてください。
整備を行うときは、バッテリを取り外して行って下さい。



火気厳禁・高温注意

バッテリの充電中ならびに油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。
また、高温になる場所や火気の近くでの充電は行わないでください。

各部の名称とはたらき



1　**スピードコントロール ノブ** ･･････DCパワーユニット（モータ）回転数の増減を行います。

2　**走行クラッチレバー** ････････ＤＣパワーユニットからの動力を断続するときに使用します。

3　**サイドクラッチレバー** ･･････車両を旋回するときに使用します。

4　**モータ停止スイッチ** ････････DCパワーユニットを停止するときに使用します。

5　**メインパワーボタン** ････････DCパワーユニット電源のオン・オフを行います。

6　**変速レバー** ･･････････････車両の前後進、走行速度を切り替えるときに使用します。

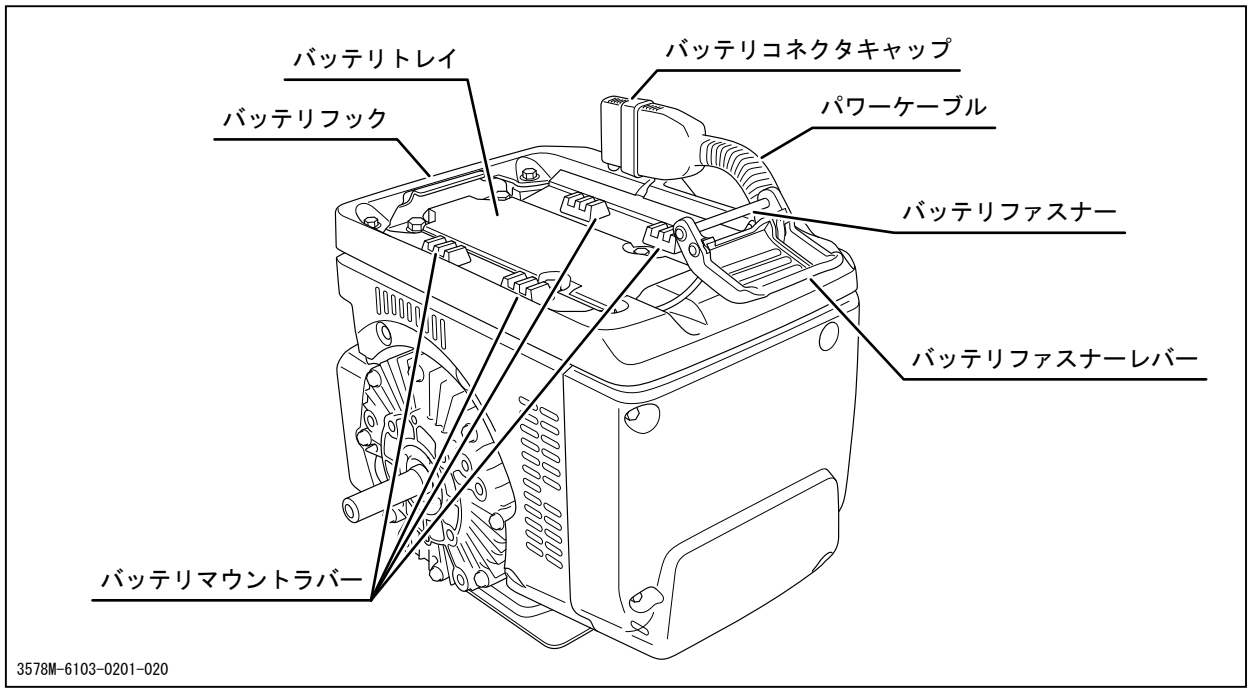
7　**副変速レバー** ･････････････車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

8　**ダンプレバー** ･････････････荷台の上昇または下降を行うときに使用します。

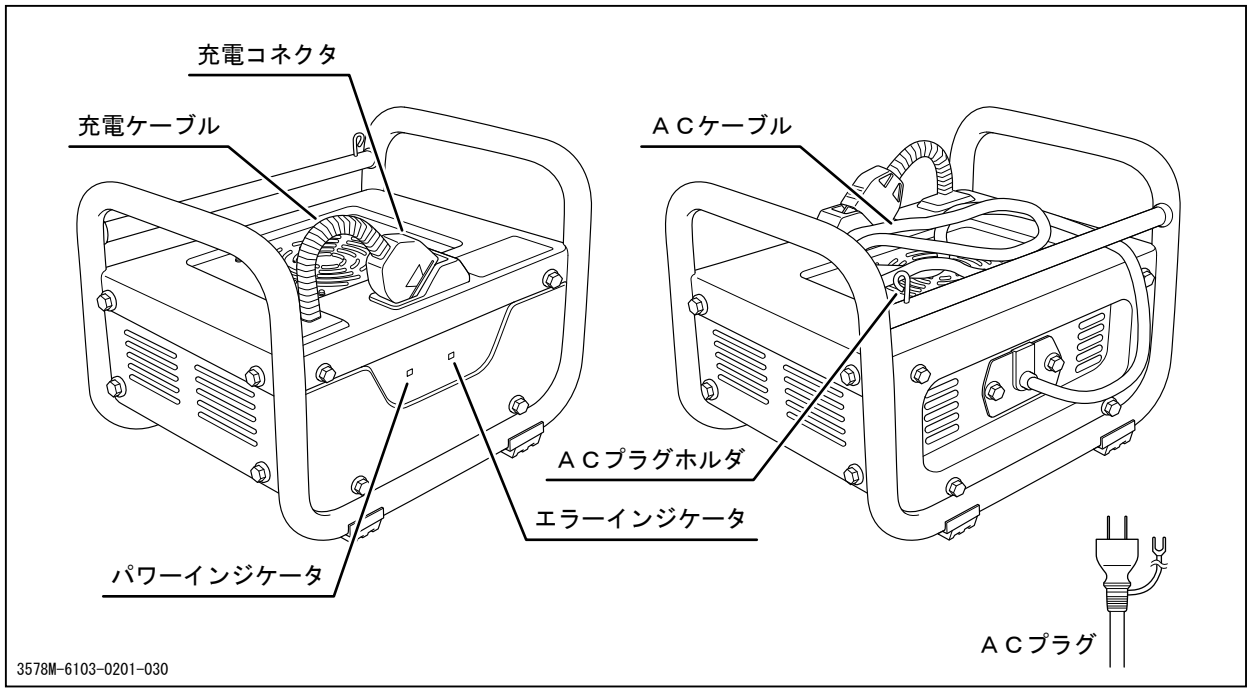
9　**アワメータ** ･･････････････累計稼働時間を0.1時間単位で示します。（DCパワーユニットの電源が[ＯＮ]の時のみ計時します。）

10 **キースイッチ** ･････････････主電源のオン・オフを行います。

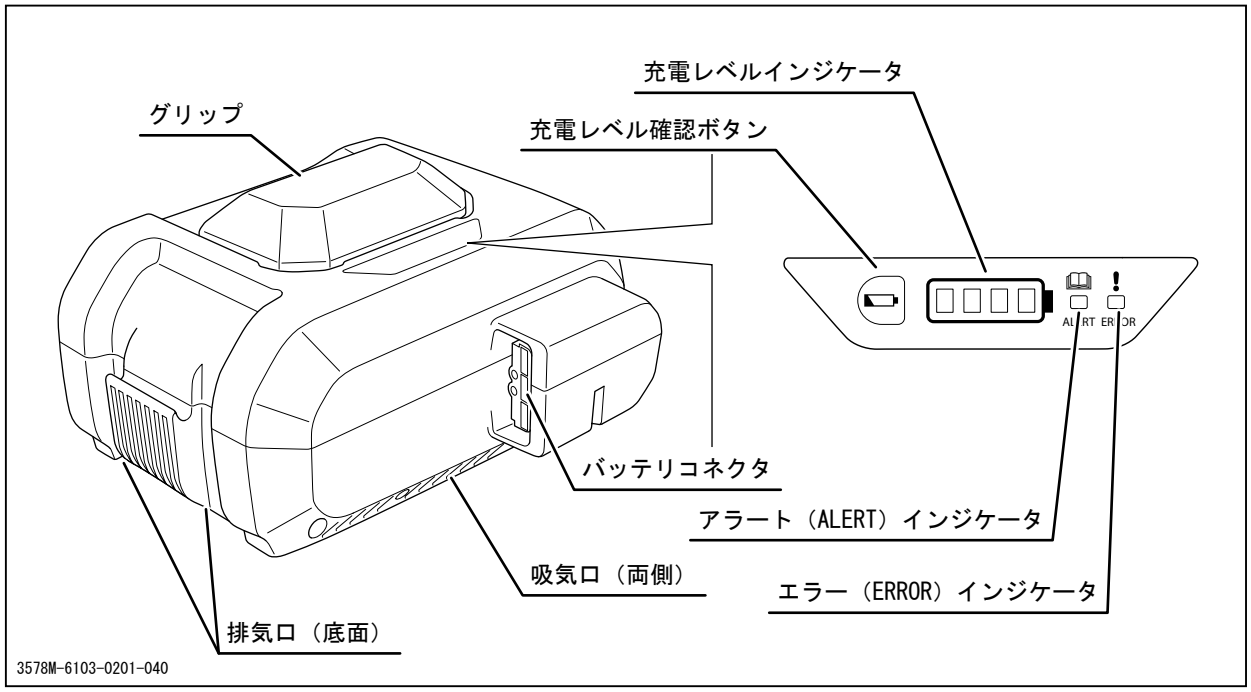
ＤＣパワーユニット



バッテリ充電器



バッテリパック



本製品の仕様

⚠ 警　告

・感電および爆発の危険性があります。本製品の安全な使用のため、「バッテリパックと充電器の取り扱い（☞14ページ）」を確認してから本製品をご使用ください。

⚠ 注　意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				SC30 一方ダンプ
機械質量			kg	220
最大作業能力			kN(kgf)	2.94(300)
機械寸法	全長		mm	2140 {2045}
	全幅		mm	740
	全高		mm	1055 {1150}
	クローラ接地長		mm	740
	クローラ中心距離		mm	495
	クローラ幅		mm	180
	最低地上高		mm	90
	床面高さ		mm	405
荷箱	荷箱内側寸法	長さ	mm	1245
		幅	mm	730
		高さ	mm	430
	荷箱容積		m^3	0.27
DCパワーユニット	名称			Honda GXE 2.0H
	形式			モーターユニット
	モータ			DCブラシレスモータ
	最大出力		kw(PS)/rpm	1.8(2.4)/3600
	最大トルク		N･m(kgf･m)	4.8(0.49)/3600
	最大電圧		V	72
	冷却方式			強制空冷
	使用温度範囲		℃	-15～40

{　} 内はハンドルが高位置の時

製品仕様

名称・型式				SC30 一方ダンプ
バッテリパック	名称			Honda DP72104Z
	形式			充電式リチウムイオン電池
	電圧		V	DC 72
	電力容量		Wh	720
	充電温度範囲		℃	5～30*1
	使用温度範囲		℃	-15～40
	推奨保管温度範囲		℃	-5～30
充電器	名称			Honda CV7285Z
	入力電圧		V	ＡＣ100～240
	入力周波数		Hz	50/60
	出力電圧		V	DC 82.8
	出力電流		A	8.5
	適合バッテリ			DP72104Z
走行性能	走行速度	前進1速	km/h	0.5
		前進2速	km/h	0.8
		前進3速	km/h	1.4
		前進4速	km/h	2.0
		前進5速	km/h	3.3
		前進6速	km/h	5.3
		後進1速	km/h	0.7
		後進2速	km/h	2.5
	最小回転半径		m	1.2
	登坂能力		度	15 （空車）
動力伝達装置	クラッチ形式			ベルトテンション式
	主変速形式			ギヤスライド
	副変速形式			ギヤスライド
	操向装置形式			ドグクラッチ・爪ロック式
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ
	トランスミッション油量		ℓ	1.5

*1: バッテリパックの温度が5℃以下の場合は充電できません。

名称・型式			SC30 一方ダンプ
油圧装置	ダンプ方式		ダンプ
	油圧ポンプ形式		ギヤポンプ
	定格吐出量	ℓ/min	3.85
	リリーフ設定圧	MPa(kgf/cm²)	8.8(90)
	シリンダ(内径×行程)	mm	55×200
	油圧作動油量	ℓ	0.6
	ダンプ角度	度	90
	上昇時間	秒	6.2
	下降時間	秒	4.6

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	ＤＣパワーユニット取扱説明書	1	
3	バッテリパック充電器	1	バッテリパック充電用
4	バッテリパック充電器 取扱説明書	1	
5	バッテリパック	2	
6	バッテリパック取扱説明書	1	

運転前の準備

始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞32ページ）を参照してください。

バッテリパックと充電器の取り扱い

バッテリパックおよび充電器の使用前に付属の**「バッテリ充電器取扱説明書」**および**「バッテリパック」**を熟読し、安全な取り扱い方法を理解してからご使用ください。

⚠ 危　険

・充電中に発生する電磁波が電子医療機器に影響を及ぼす可能性があります。埋め込み型の心臓ペースメーカーや除細動器などの電子医療機器を使用している方は、充電による電磁波の影響について医師や電子医療機器メーカーに確認してください。

・バッテリパックや充電器を正しく使わないと、爆発や感電の危険があります。
- 火気の近くや引火物のある所で充電や保管を行わないでください。
- 高温になる場所や低温の場所で充電や保管を行わないでください。
- バッテリパックおよび充電器は必ず純正品を使用してください。
- バッテリパックや充電器が濡れたり水につかった状態で使用しないでください。また、これらが浸水しないようにしてください。
- 体や金属類がバッテリの端子に触れないようにしてください。
- 充電中や使用中にバッテリパックが高温になる、液漏れする、または異臭がするようなことがある場合ば直ちに使用をやめて、近くに火気がなく高温にならない場所に本機を停めてください。

⚠ 警　告

・バッテリからもれた液が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

⚠ 注　意

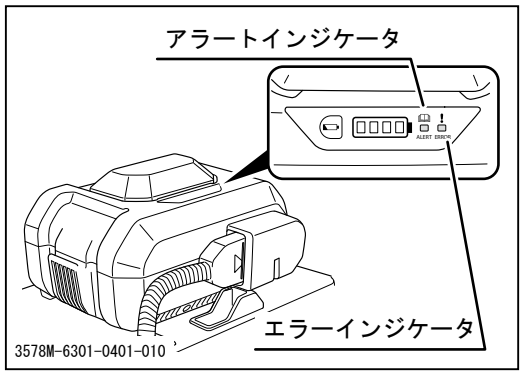
・バッテリパックや充電器の接続部にホコリや汚れが付いた状態で接続しないでください。

・バッテリパックや充電器のケーブルを引っ張らないでください。また、ケーブルが損傷した場合は新品に交換してください。

・バッテリパックのアラートインジケータ[ALERT]やエラーインジケータ[ERROR]が点灯または点滅しているときは直ちに電源を切り、バッテリパック取扱説明書を確認の上、適切な処理を行って下さい。

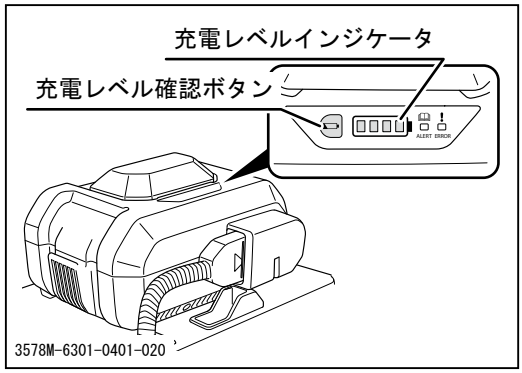
・バッテリパックや充電器を分解や改造しないでください。また、落としたり衝撃を加えたりしないでください。
- 充電時や持ち運び時にバッテリパックを落とさないようにしてください。
- 車などで移送の際は動かないように固定し、緩衝材等で保護してください。また、車のトランクや炎天下のトラックの荷台のように高温になる所に積載しないでください。
- バッテリパックを積み重ねないでください。また、上に物を置かないでください。

・本機のバッテリパックはリチウムイオン電池です。
- 航空機や船舶での移送は法規で規制されています。詳しくは運送業者にご確認ください。
- 廃棄についても法規による規制があります。自治体のゴミ捨てルールをご確認ください。



アドバイス

・アラートインジケータ、エラーインジケータは左図を参照してください。
・充電器入力電源：AC100～240V、50/60Hz
・充電温度範囲：5～30℃
・バッテリパック使用温度範囲：
　　-15～40℃
・バッテリパック保管温度範囲：-5～30℃



充電レベルの確認

1. バッテリパックの充電レベル確認ボタンを押して、充電レベルインジケータに表示される充電レベルを確認します。
2. 充電レベルが低いときは、バッテリパックを充電します。

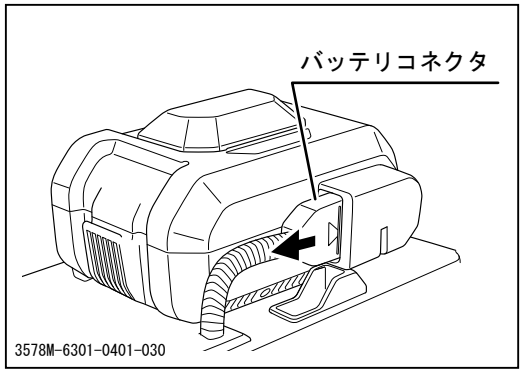
アドバイス

・充電レベルインジケータに表示される充電レベルについては、バッテリパック取扱説明書を参照してください。

バッテリパックの充電

アドバイス

・バッテリパックは車体から取り外して充電器に接続してください。
・充電は屋内の平坦で、充電器が安定する場所で行って下さい。

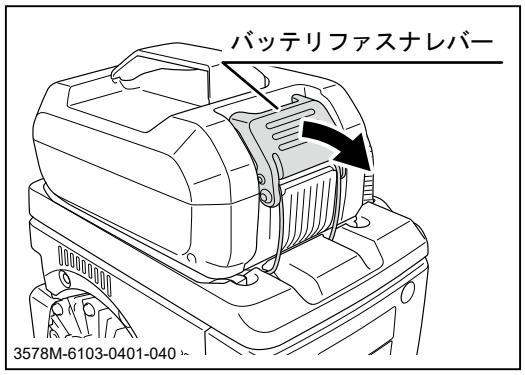


バッテリパックの取り外し

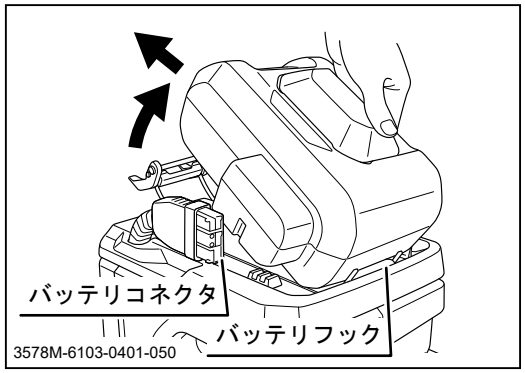
1. ＤＣパワーユニットからバッテリコネクタを抜きます。

アドバイス

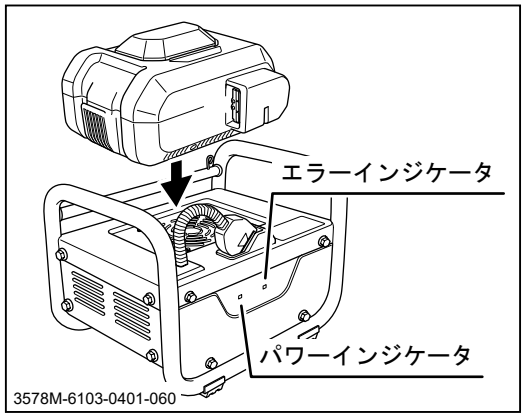
・バッテリコネクタを抜くときに、パワーケーブルを引っ張って抜かないでください。断線の恐れがあります。



2. バッテリファスナレバーを引き下げてロックを解除します。



3. バッテリパックを上に傾け、バッテリパックをバッテリフックから引き出すようにしてバッテリパックを取り外します。
4. 取り外したパワーケーブルのバッテリコネクタにバッテリコネクタキャップを取り付けます。



充電

1. 充電器を水平で安定した場所に置きます。
2. 充電器の電源ケーブルをコンセントに差し込みます。充電器のパワーインジケータが点灯することを確認します。

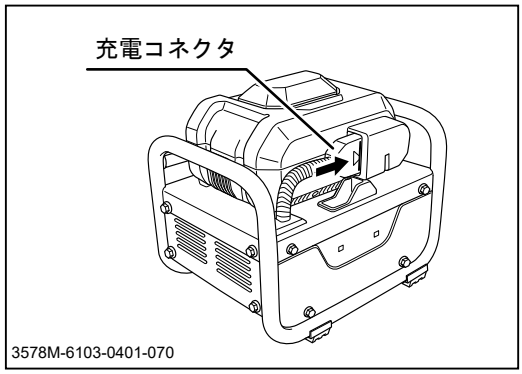
アドバイス

・エラーインジケータが点灯しているとき保護機能が作動しています。電源を外し、販売店にご相談ください。

3. バッテリパックを充電器中央部の凹部には収まるように真っすぐ置きます。

アドバイス

・バッテリパックが凹部に収まっていないと、充電中にバッテリパックが冷却されず、保護機能により充電が停止することがあります。



4. 充電器の充電コネクタをバッテリパックのバッテリコネクタに接続します。

アドバイス

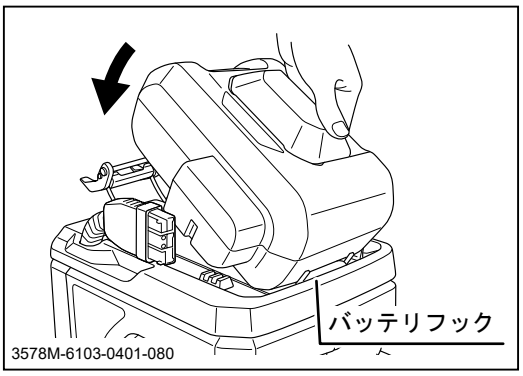
・充電状態はバッテリパックの充電インジケータに表示されます。詳細についてはバッテリ充電器の取扱説明書を参照してください。

5. 充電が終了したら、充電コネクタをバッテリコネクタから抜きます。

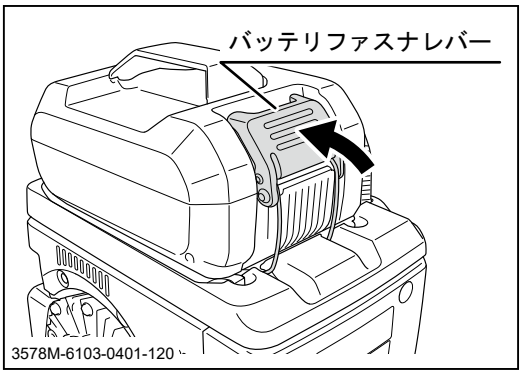
アドバイス

・バッテリパックが満充電になると受動的に充電が終了します。また、充電途中でもバッテリパックを取り外す事ができます。

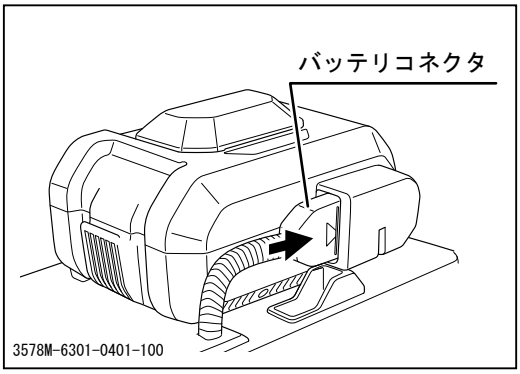
6. 充電器の電源ケーブルをコンセントから抜き、充電プラグ、電源プラグをそれぞれのホルダに収納します。



7. ＤＣパワーユニットのバッテリトレイに異物がないことを確認します。
8. バッテリパックを傾け、バッテリパックの爪をＤＣパワーユニットのバッテリフックに挿入します。



9. バッテリパックを上から押し付け、バッテリファスナをバッテリパックにかけます。
10. バッテリファスナレバーを押し上げて、バッテリパックをロックします。このとき指を挟まないように注意してください。



11. ＤＣパワーユニットのバッテリコネクターキャップを外し、パワケーブルをバッテリパックのバッテリコネクタに接続します。

ハンドル角度の調節

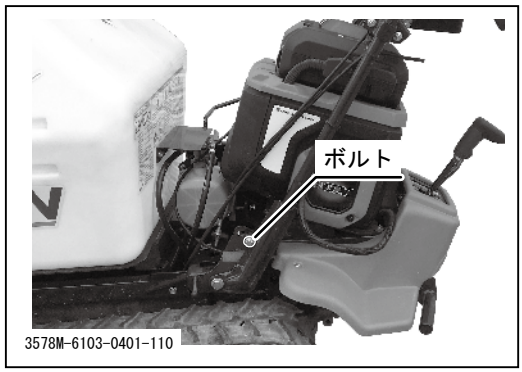
⚠ 警　告

・ハンドルは必ず適切な位置に調節して使用してください。安全な運転操作を妨げるおそれがあります。

⚠ 注　意

・ハンドル角度調節時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・ハンドル角度調節後は、ハンドルを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



1. ボルトを取り外します。
2. ハンドルを動かし、ハンドル角度を調節します。角度は2段階に調節できます。身長にあわせて角度を調節してください。
3. ボルトを取り付けます。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警　告

・ＤＣパワーユニットの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

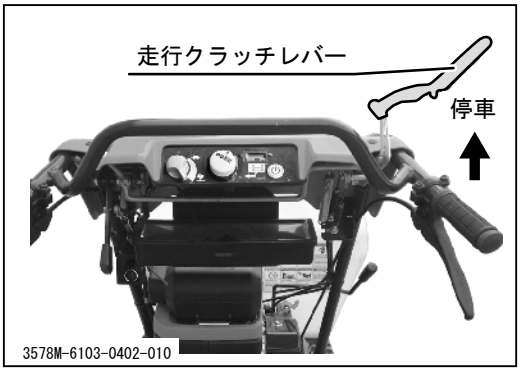
⚠ 注　意

・本機を40℃以上または-15℃以下で使用しないでください。これらの温度範囲では、本機は十分な性能を発揮できません。このような条件下で本機を使用すると、事故や本機の破損の原因となることがあります。

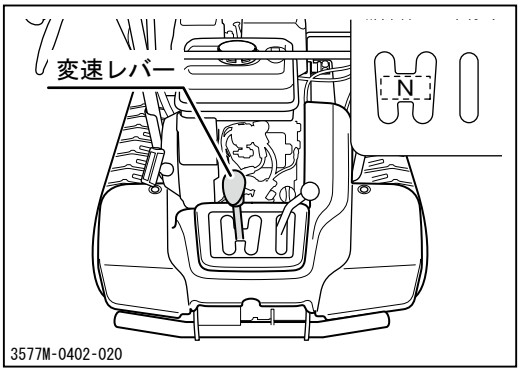
・低温下で使用すると、バッテリーの稼働時間が短くなります。

・本機を埃の覆い場所で使用しないでください。バッテリーパック内にゴミがはいり故障の原因となります。

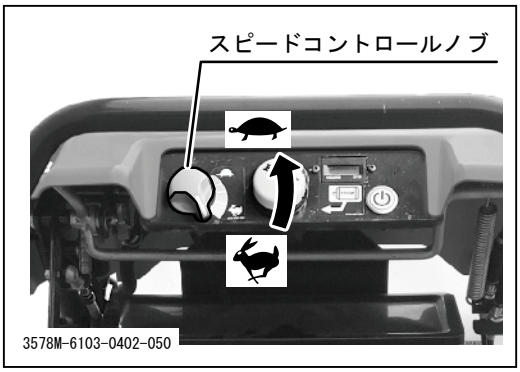
・高度 1500m 以上では使用しないでください。それ以上の高度では本機の性能が十分に発揮できません。このような条件下で本機を使用すると、事故や故障の原因となることがあります。その高度以上で本機を使用する必要がある場合は当社担当までお問い合わせください。



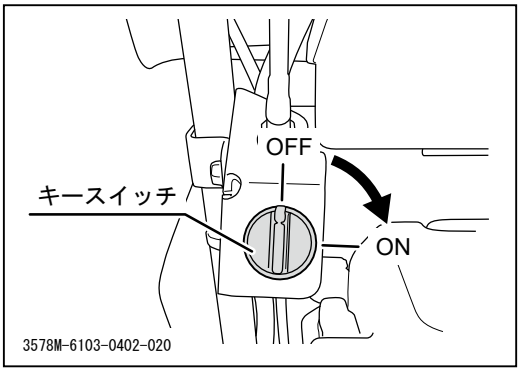
1. 走行クラッチレバーが「停車」にあることを確認します。



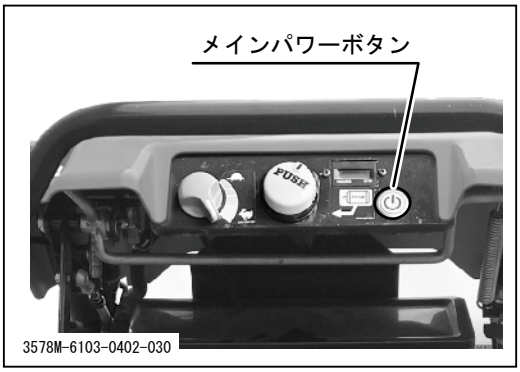
2. 変速レバーが「N（ニュートラル）」にあることを確認します。



3. スピードコントロールノブが[（低速）]側にあることを確認します。



4. キースイッチを[ＯＮ]にします。



5. メインパワーボタンを押します。パワーが[ＯＮ]になると警告音が鳴り、車体のメインパワーランプとバッテリパックの充電レベルインジケータが点灯します。

6. モータ停止スイッチを下に押したまま右に回し、[運転]にします。

運転のしかた

⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。

・急発進・急加速・急旋回を行わないでください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・荷台を上げた状態で走行しないでください。走行時は必ず荷台を下して固定位置にしてください。

・傾斜地では副変速を「低速」にし、低速で走行してください。運転者が振り回されたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。

・斜面で旋回しないでください。車両が逆旋回したり、スリップや転倒をしたりするおそれがあります。

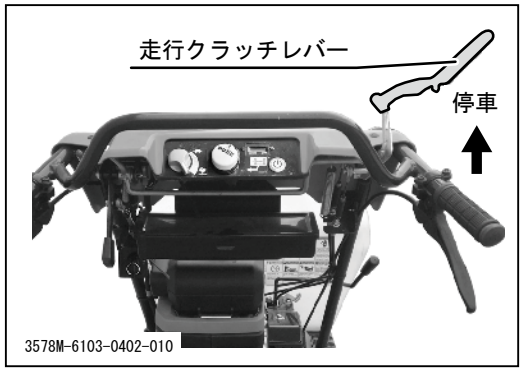
・見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

・走行中にキースイッチやモータ停止スイッチを[切]にしたり、メインパワーボタンを操作したりしないでください。

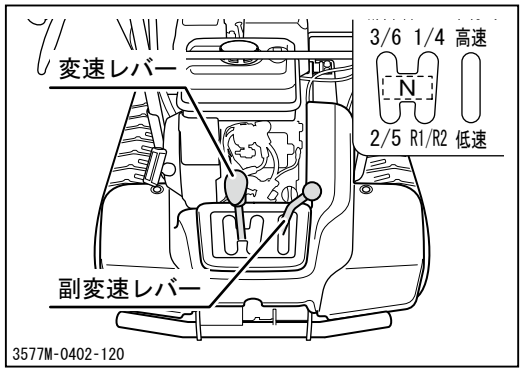
⚠ 注　意

・走行クラッチレバー操作時はグリップ部を操作してください。グリップ以外を持つと手や指をはさむおそれがあります。

・過度な走行クラッチレバーの操作は避けてください。モータ保護機能が作動し、モータが停止する可能性があります。その場合は停止スイッチとキースイッチを一旦[ＯＦＦ]にしてから再度電源を投入してください。



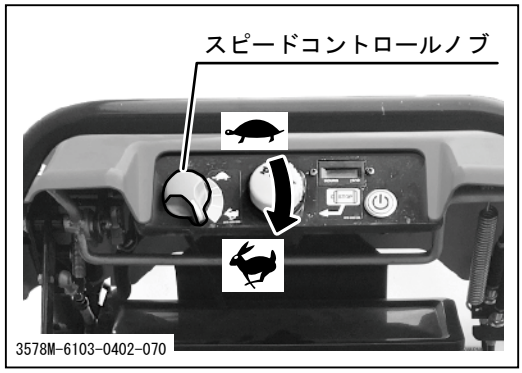
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 走行クラッチレバーが[停車]にあることを確認します。



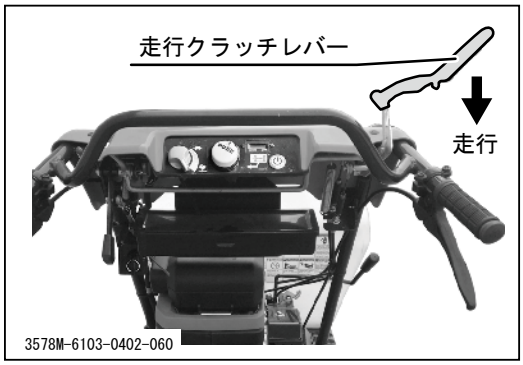
3. 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

アドバイス

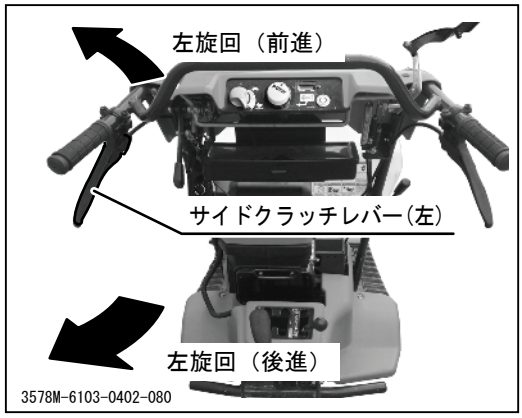
- 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞11ページ）を参照してください。
- 変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。



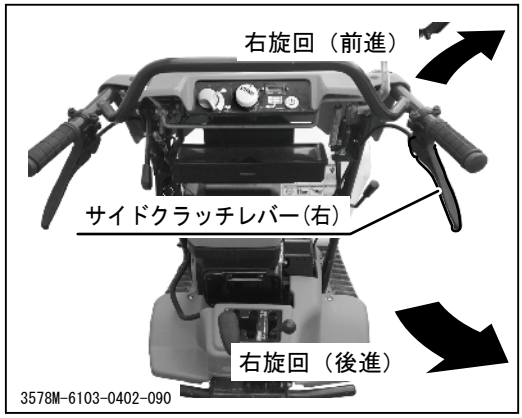
4. スピードコントロールノブを[（高速）]にし、モータの回転数を上げます。



5. 走行クラッチレバーを[走行]にし、車両を発進させます。



6. 左旋回したい場合は左側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。



6. 右旋回したい場合は右側のサイドクラッチレバーを握り、旋回します。

アドバイス

・5分間操作が無いときは、ＤＣパワーユニットが自動的にオフになります。

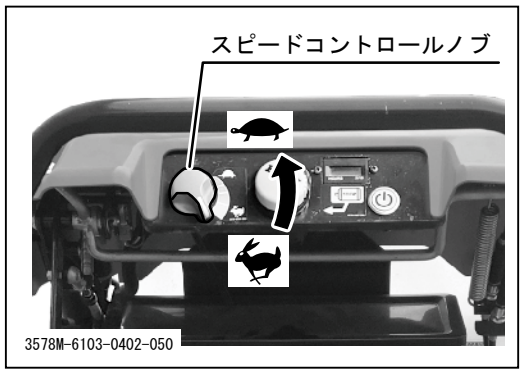
停止のしかた

⚠ 警　告

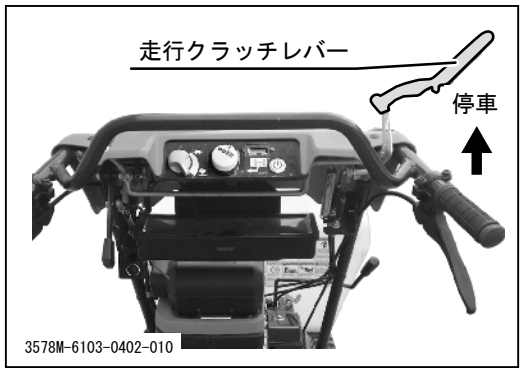
・急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。

・停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。

・傾斜地で走行クラッチが[走行]の状態でモータ停止スイッチやキースイッチ、メインパワーボタンを[ＯＦＦ]にしないでください。車両が暴走する可能性があります。



1. スピードコントロールノブ[(低)]にし、車両を減速させます。



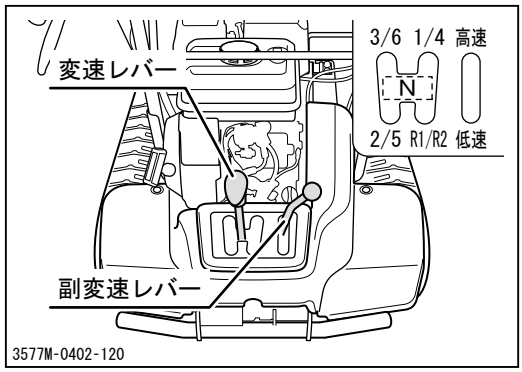
2. 走行クラッチレバーを[停車]にし、車両を停止させます。

変速のしかた

⚠ 警　告

・変速操作は必ず車両を停止させてから行ってください。

・変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。



1. 車両を確実に停止させます。
2. 変速レバーおよび副変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

アドバイス

・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞11ページ）を参照してください。

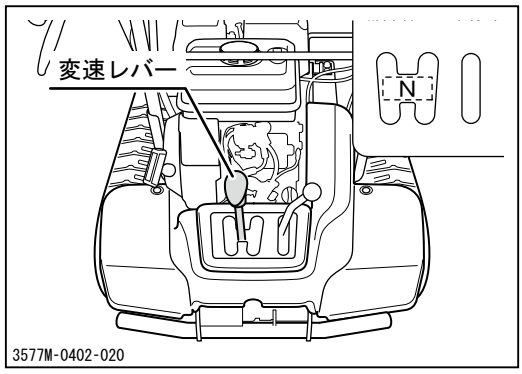
・変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走行」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。

駐車のしかた

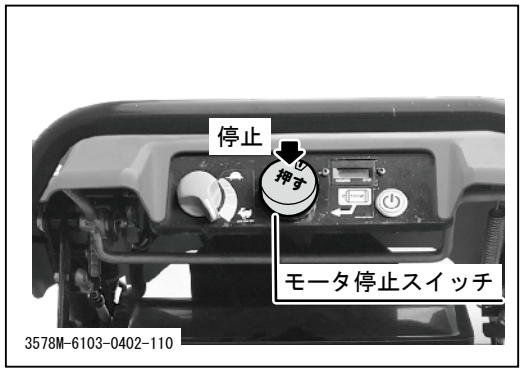
⚠ 警　告

・駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

・傾斜地には駐車をしないでください。15度以上の傾斜地には絶対に駐車しないでください。15度以下の傾斜地にやむなく駐車する場合は、クローラの下側に輪止めをしてください。



1. 車両を確実に停止させます。
2. スピードコントロールノブを[🐢（低）]にし、ＤＣパワーユニットの回転数を下げます。
3. 変速レバーを「Ｎ（ニュートラル）」にします。

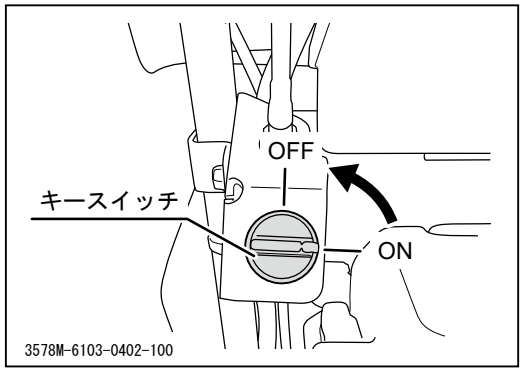


4. モータ停止スイッチを押して「停止」にします。

アドバイス

・モータ停止スイッチを押すと自動で「停止」になります。

5. メインパワーボタンを押して電源を切ります。メインパワーランプをバッテリパックの充電インジケータが消灯したことを確認してください。
6. キースイッチを[切]にし、キーを抜きます。



アドバイス

・5分間操作が無いときは、ＤＣパワーユニットが自動的にオフになります。
・必ずメインパワーボタンをオフにしてからキースイッチをオフにしてください。

作業のしかた

ダンプ操作

⚠ 警　告

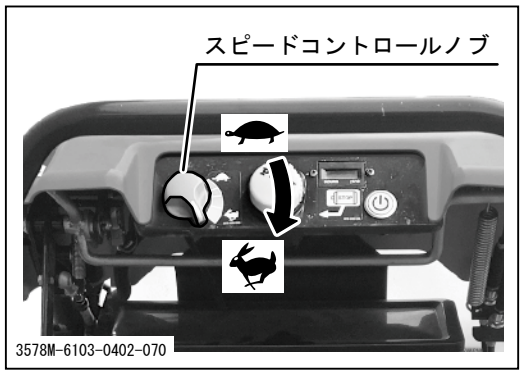
・ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。

・傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。車両が転倒するおそれがあります。

⚠ 注　意

・ダンプ操作は必ずＤＣパワーユニットが回転している状態で行ってください。

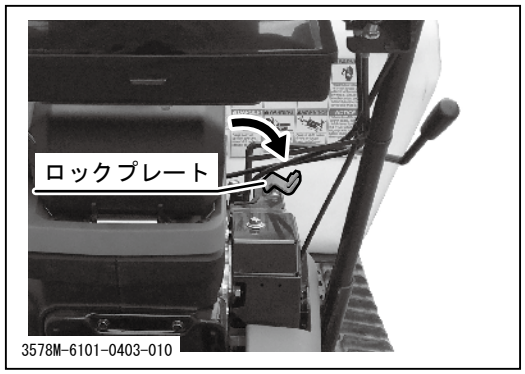
・積載したまま荷台を下降させる場合は、ゆっくりと下降させてください。



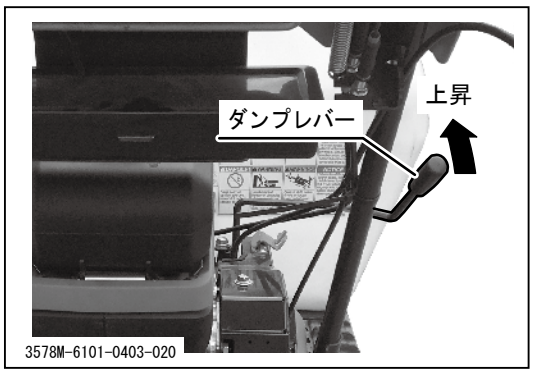
1.　ＤＣパワーユニットの回転数を任意の回転数にします。

アドバイス

・ＤＣパワーユニット回転数でダンプの速度をコントロールすることができます。



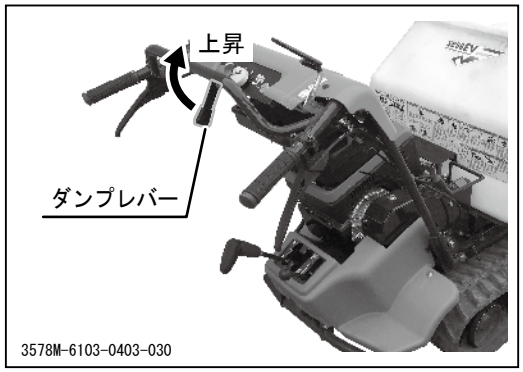
2.　ロックプレートを解除します。

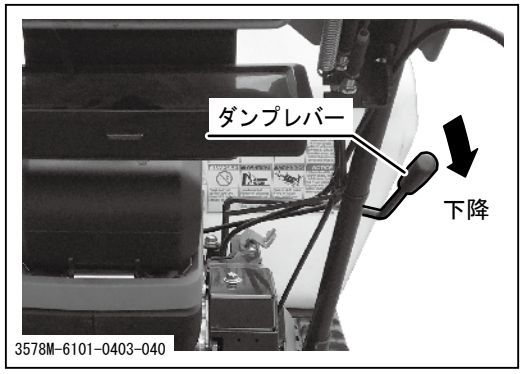


3. ダンプレバーを「上昇」にし、荷台を上昇させます。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを「●（中立）」へ戻します。

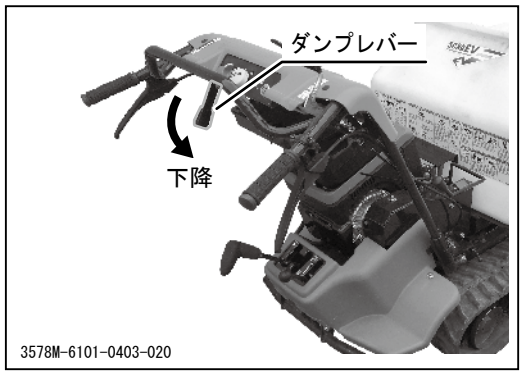
アドバイス

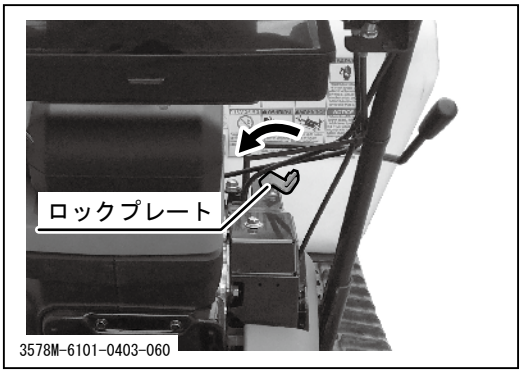
・ダンプレバーはデッキとハンドルの2ヶ所あります。





5. ダンプレバーを「下降」にし、荷台を下降させます。
6. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを「●（中立）」へ戻します。





7. ロックプレートでレバーを固定します。

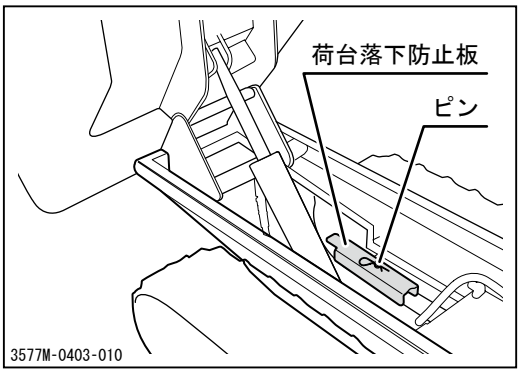
荷台落下防止板の操作

⚠ 警　告

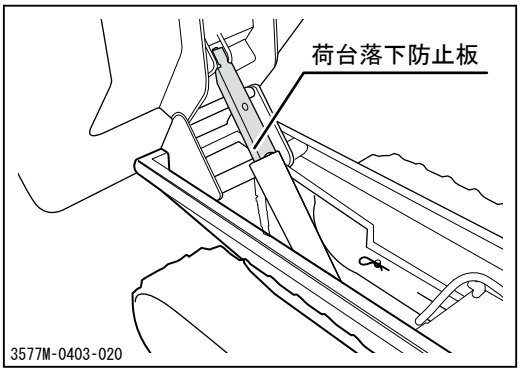
・点検等で荷台を上昇させた場合には、必ず荷台落下防止板で荷台を確実に固定してください。

⚠ 注　意

・荷台を下降させる前に、必ず荷台落下防止板を元に戻してください。



1. 荷台を上昇させます。
2. ピンを取り外し、荷台落下防止板を取り外します。



3. 荷台落下防止板を左図の向きに取り付け、荷台を確実に固定します。

定期点検表

⚠ 警　告

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

ＤＣパワーユニット

日常点検

・各部締付ネジの点検 - 緩みや欠品がないこと
・音、振動 - 異音や異常振動がないこと
・全般的な外観 - 汚れがなく、欠品や破損がないこと

定期点検

項目		作業前（毎日）	5年毎または500時間毎*1
外部カバー類	点検	○	
パワーケーブル	点検	○	
ハーネス一式	点検		○*2 *4
バッテリファスナ	点検	○	
	交換		○*2 *4
バッテリマウントラバー	点検	○	
	交換		○*2
バッテリフック	点検	○	
	交換		○*2
マウントラバー	点検		○*2
ストッパボルト	点検		○*2
ストッパラバー	点検		○*2
水抜き穴	清掃		○*2
回転数	点検	適宜*3	

*1：点検時期は表示の期間ごと、又は運転時間ごとのどちらか早い方で実施してください。
*2：これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、当社販売店にお申し付けください。
*3：回転音が通常と異なるときのみ点検を実施してください。点検については当社販売店にお申し付けください。
*4：必要ならば交換してください。

車両の点検

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	点検時期 月次	点検時期 年次	備考
走行装置	クローラ	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	点検/調整：☞39ページ
		張りボルトに変形、腐食がないこと	○	○	○	
	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース周辺からのオイル漏れがないこと		○	○	
	Vベルト	Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○	点検：☞42ページ
		ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞42ページ
	走行クラッチ	アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること		○	○	
		クラッチを接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること		○	○	
	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	点検/調整：☞43ページ
		ブレーキ作動時に15°の勾配で停止状態を保持できること		○	○	
	サイドクラッチ	操作時に異音がなく確実に作動すること	○	○	○	
		レバーの遊びおよび引きしろが適正であること	○	○	○	点検/調整：☞44ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	
電気装置	スイッチ	スイッチが正常に点灯すること	○	○	○	
	バッテリパック	充分に充電されていること	○	○	○	
		正常に充電できること		○	○	
		漏れや破損がないこと	○	○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	点検時期 月次	点検時期 年次	備考
走行装置	転輪 遊動輪 スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		軸部周辺よりオイル漏れがないこと		○	○	
	ロッド リンク ワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと	○	○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと	○	○	○	
車両・安全装置等	車枠および車両	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバー	亀裂、変形がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台および荷扉	荷台の上下が円滑におこなえること		○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台落下防止板	荷台落下防止板に変形がないこと		○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
油圧装置	油圧パッケージ	油圧パッケージ内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	点検/交換：☞45ページ
		油圧パッケージ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ブリーザに目詰まりのないこと			○	
		パイプおよびホースとの継手部、シール部等からの油漏れがないこと		○	○	
		油圧パッケージ作動時に異常振動、異音または異常発熱がないこと		○	○	
		負荷時に油圧ポンプの吐出量および吐出圧力がメーカー指定の基準値内であること ※上記項目の異常振動、異音および異常発熱がなければこの検査を省略してもよい			○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
油圧装置	油圧シリンダ	円滑に作動すること		○	○	
		シリンダを伸縮作動させた時にシール部からの油漏れがないこと		○	○	
		シリンダに負荷をかけて静止させた時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること			○	
		シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと		○	○	
		シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと		○	○	

給油・給水一覧表

項目	補給（交換）時期	推奨品	容量
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	1.5ℓ
油圧パッケージオイル	100時間毎に点検し不足時に補給	ISO VG32	0.6ℓ

給脂・注油一覧表

給脂・注油箇所	補給時期	推奨品
変速レバーリンク部	半年毎	シャーシグリース
ダンプ支点	半年毎	シャーシグリース
油圧シリンダ両端（上下）	半年毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80

消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

アドバイス

・ゴム製品は時間の経過とともに劣化します。２年毎に交換してください。
・以下のURLまたはQRコードでオンラインパーツリストをご覧ください。
https://www.canycom.jp/maintenance/parts/
サイトに移動し、リスト内からモデルを検索します。

・消耗部品は別のページに記載されています。
https://www.canycom.jp/maintenance/recomment/consumables_SC30.pdf
（これはPDFファイルにリンクしています。Adobeリーダーまたは類似のものが必要です。） このファイルに無い部品については上記のパーツリストを参照してください。

・上記のパーツリストが表示できない場合は販売店にお問い合わせください。
・部品の交換は販売店に依頼してください。

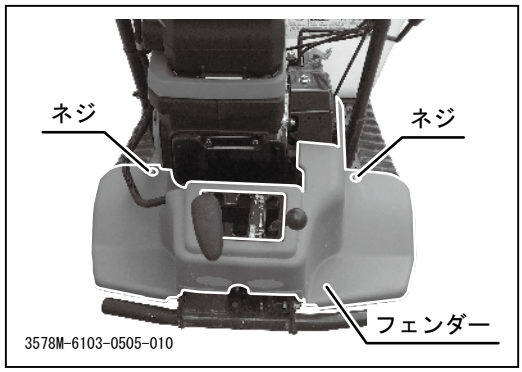
カバーの取り外しかた・取り付けかた

⚠ 注　意

・カバーの取り外し・取り付け時に手や指をはさまないように十分注意してください。

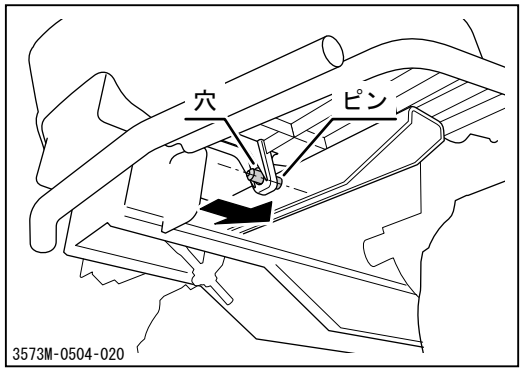
・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

フェンダー



取り外し

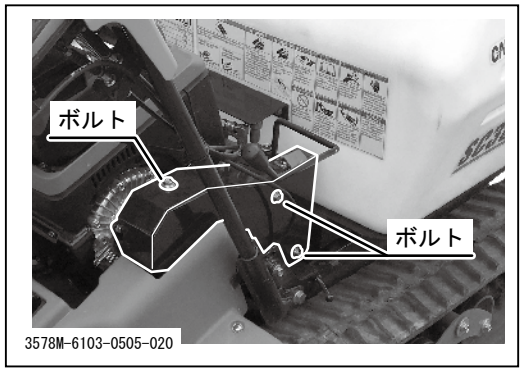
1. ネジ（2本）を取り外し、フェンダーを取り外します。



取り付け

1. カバーの穴を車両側のピンに通し、カバーを取り付けます。
2. ネジを取り付けます。

ベルトカバー



取り外し

1. ボルト（3本）を取り外し、ベルトカバーを取り外します。

取り付け

1. ベルトカバーを取り付け、ボルトを取り付けます。

ＤＣパワーユニット

アドバイス

・ＤＣパワーユニット、バッテリパック、充電器の取り扱いについては、「バッテリパックと充電器の取り扱い」（☞14ページ）、バッテリパックの充電（☞16ページ）ならびに付属の「ＤＣパワーユニット取扱説明書」、「バッテリーパック取扱説明書」、「バッテリー充電器取扱説明書」をご覧ください。
・それらの取り扱い上の注意事項に関しても、上記をご確認ください。
・バッテリパックおよびバッテリ搭載状態での車両の保管については「長期保管のしかた」（☞49ページ）をご覧ください。
・バッテリパックの移送について：本機のバッテリーパックはリチウムイオン電池です。船舶や航空機での移送は法律や国際条約、運送業者の規則等による規制があります。詳しくは運送業者にご確認ください。

走行装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずＤＣパワーユニットを停止してください。

・各部が冷えてから作業を行ってください。

・点検の前にバッテリパックを車両から取り外してください。

クローラの点検・調整

⚠ 警　告

・車両をジャッキで浮かせるときは、ジャッキが外れないように確実に固定してください。

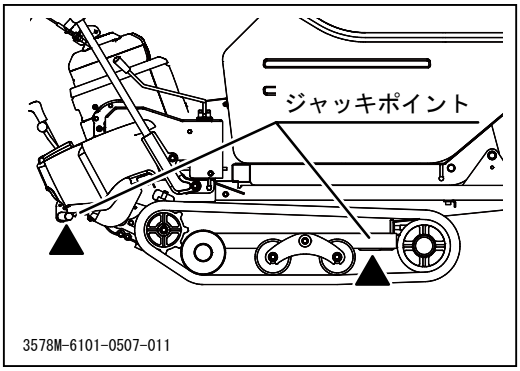
・ジャッキアップは必ず空荷状態で行ってください。

⚠ 注　意

・クローラは必ず適正な張りで使用してください。脱輪したり、クローラの寿命が短くなったりするおそれがあります。

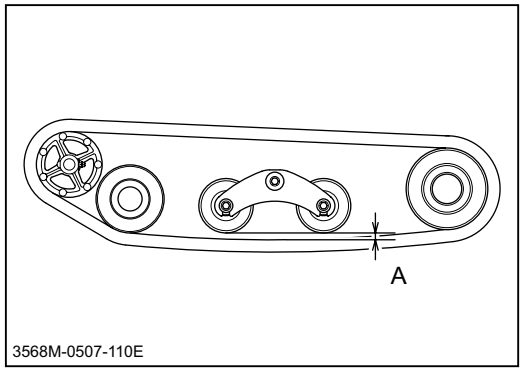
アドバイス

・クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが発生しますので、定期的に点検・調整を行ってください。

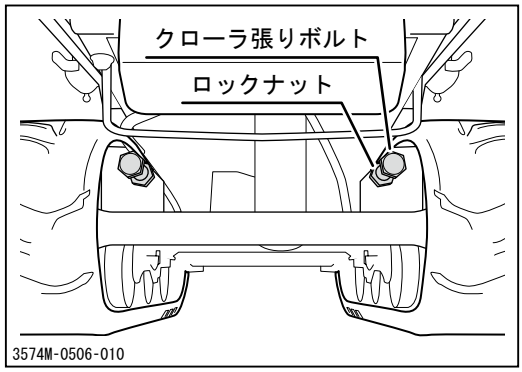


点検

1. 車両をジャッキなどで、地面と平行になるように浮かせます。



2. クローラと中央転輪の隙間Ａが、スイングが水平の状態で10～15㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合には調整します。
3. 車両を降ろします。



調整

1. 車両をジャッキなどで地面と平行になるように浮かせます。
2. ロックナットを緩めます
3. クローラと転輪の隙間Ａが10～15㎜になるようにクローラ張りボルトで調整します。
4. ロックナットを確実に締め付けます。
5. 車両を降ろします。

トランスミッションオイルの交換

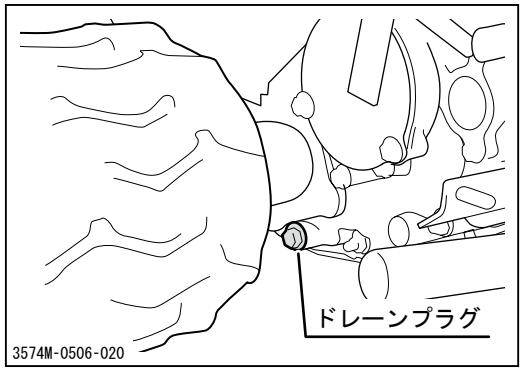
⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになるとトランスミッション故障の原因となります。指定のオイルを過不足なく補給してください。

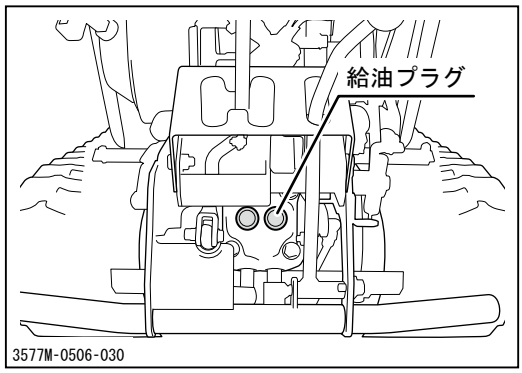
・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞35ページ



1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. フェンダーを取り外します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。

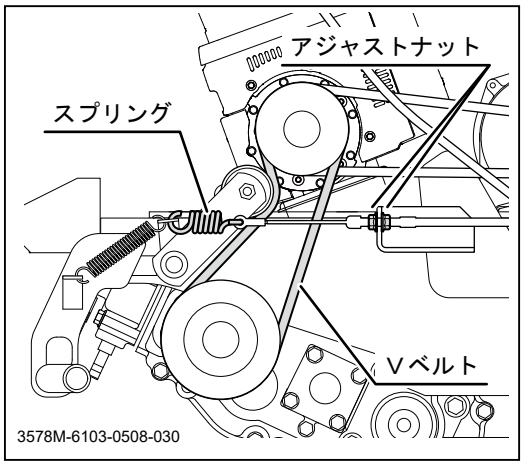


6. 給油プラグを取り外します。
7. 給油口より指定のオイルを補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. フェンダーを取り付けます。

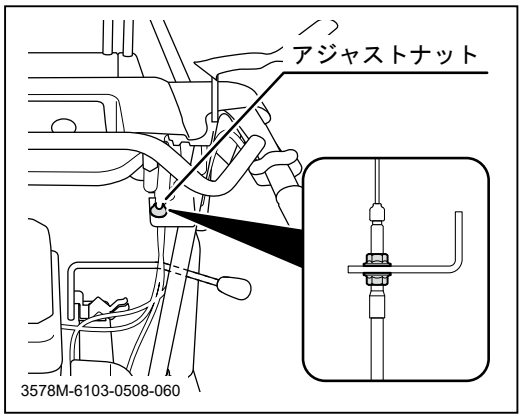
走行Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトがすべる場合にはベルトの張りを調整してください。ベルトの寿命が短くなるおそれがあります。



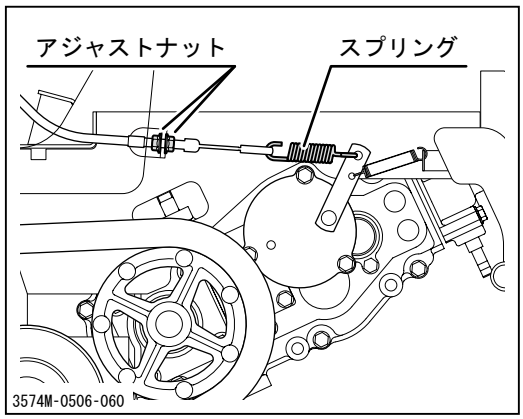
1. フェンダーを取り外します。
2. 走行クラッチレバーを「走行」にします。
3. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングの伸びが1.5～2mmであるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
4. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
5. フェンダーを取り付けます。

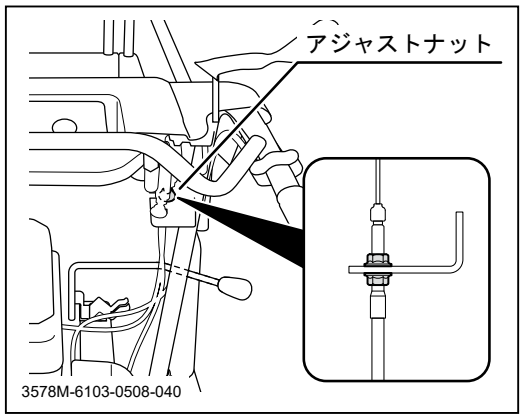


ブレーキの点検・調整

⚠ 警　告

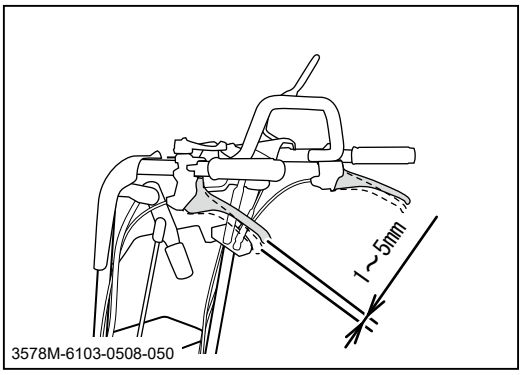
・ブレーキの効きが少しでも甘くなったらすぐに調整を行ってください。



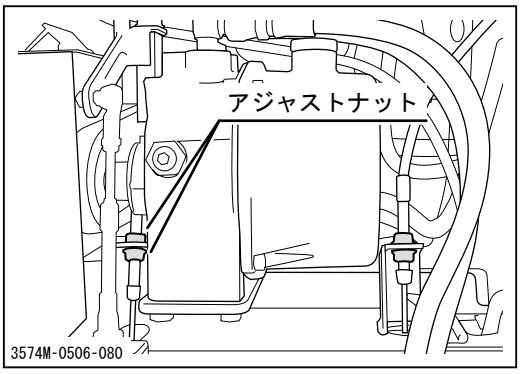


1. フェンダーを取り外します。
2. 走行クラッチレバーを「停車」にします。
3. スプリングの伸びが3～4㎜であるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
4. フェンダーを取り付けます。

サイドクラッチの調整



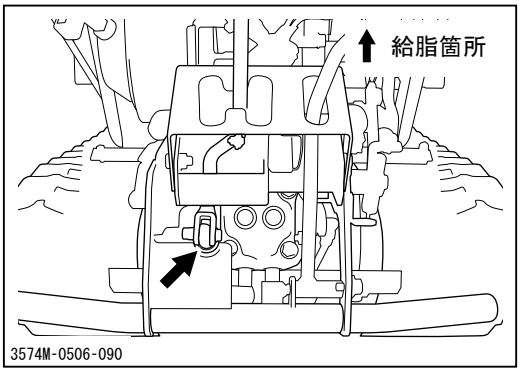
1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止板で確実に固定します。
2. サイドクラッチレバーの遊びが1～5mmになるようにアジャストナットで調整します。
3. 荷台を下降させます。



給脂

⚠ 注　意

・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。



1. フェンダーを取り外します。
2. 給脂箇所に指定のグリースを給脂します。
3. フェンダーを取り付けます。

油圧装置

⚠ 警　告

・作業時は必ずＤＣパワーユニットを停止してください。

・各部が冷えてから作業を行ってください。

・点検の前にバッテリパックを車両から取り外してください。

パワーパッケージオイルの点検・補給

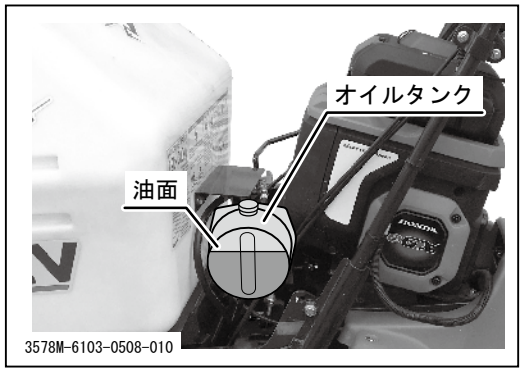
⚠ 注　意

・オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

・廃油は適切な処理をしてください。

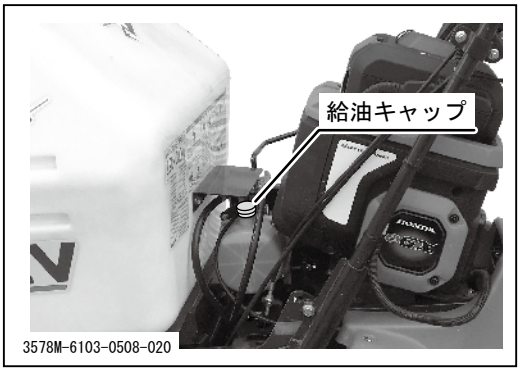
アドバイス

・オイル量の点検は荷台を下げてから行ってください。荷台を上げた状態では正確なオイル量が点検できません。
・オイル量の点検は車両が水平の状態で行って下さい。
・指定オイル、規定オイル量：☞35ページ



点検

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. オイル量を目視点検し、油面がオイルタンクの600の目盛りより上にあることを確認します。
3. オイルが不足している場合はオイルを補給します。



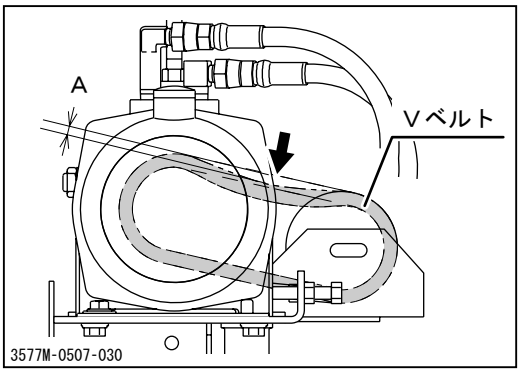
補給

1. 給油キャップを取り外し、オイルを補給します。
2. 給油キャップを取り付けます。
3. ＤＣパワーユニットを始動しオイルを循環させます。

油圧Ｖベルトの点検・調整

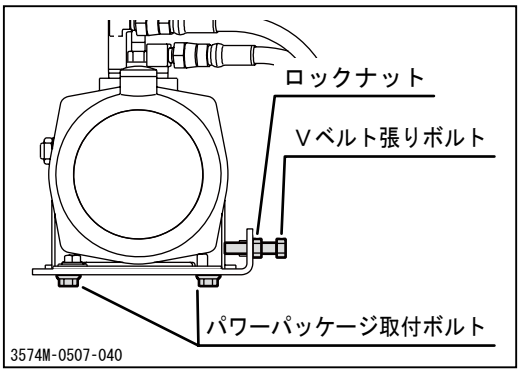
⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。



点検

1. ベルトカバーを取り外します。
2. Ｖベルトの張りを点検します。Ｖベルトの中央付近を指で押し、たわみ量Ａが約10㎜であるか点検します。適正でない場合は調整します。
3. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ作業を依頼してください。
4. ベルトカバーを取り付けます。



調整

1. パワーパッケージ取付ボルト（4本）を緩めます。
2. ロックナットを緩めます。
3. Ｖベルトの中央付近を指で押さえたときにたわみ量が約10㎜になるようにＶベルト張りボルトで調整します。
4. ロックナットを締め付けます。
5. パワーパッケージ取付ボルト（4本）を締め付けます。

荷台装置

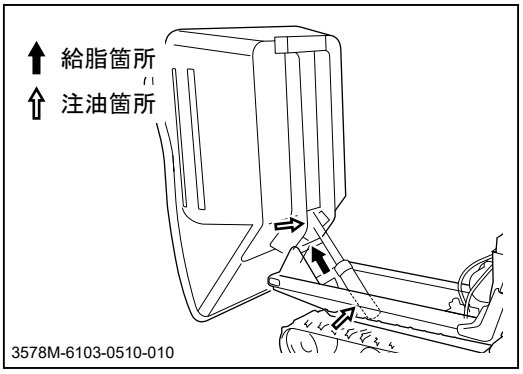
給脂・注油

⚠ 注　意

・給脂・注油がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂・注油を行ってください。

アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。



1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止板で確実に固定します。
2. 給脂箇所に市販のグリースポンプで指定のグリースを給脂します。
3. 注油箇所に指定のオイルを注油します。
4. 荷台を下降させます。

使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・ＤＣパワーユニットやバッテリパック、操作パネルなどの電装部品、ブリーザ穴の開いたキャップ類の水洗いはしないでください。水の浸入による漏電や故障、錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

・点検前にバッテリパックを車両から取り外してください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 車両は屋内で保管してください。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 車両は屋内で保管してください。

長期保管のしかた

⚠ 警　告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・ＤＣパワーユニットやバッテリパック、操作パネルなどの電装部品、ブリーザ穴の開いたキャップ類の水洗いはしないでください。水の浸入による漏電や故障、錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

アドバイス

・保管前にバッテリーパックの充電レベルを確認してください。充電レベルインジケータが1～3まで点灯していれば長期保管が可能です。それ以外の状態で長期保管すると、電池パックの劣化を早める恐れがあります。
・バッテリーパックは、-5℃～30℃の温度で保管する必要があります。30℃を超える温度で保管するとバッテリーパックの劣化を早める恐れがあります。
・保管に関する詳細は、別冊のバッテリーパック取扱説明書およびＤＣパワーユニット取扱説明書を参照してください。

1. **「駐車のしかた」**（☞28ページ）の手順に従って、車両を駐車します。
2. バッテリパックを車両から取り外して、キーをキースイッチから抜きます。
3. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
4. 付属の**「ＤＣパワーユニット取扱説明書」「バッテリパック取扱説明書」**の指示に従って、ＤＣパワーユニットとバッテリパックの長期保管準備を行います。
5. 車両は屋内に保管してください。

不具合診断表

⚠ 注　意

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
ＤＣパワーユニット関連	電源が入らない	キースイッチが[ＯＦＦ]になっている	→キースイッチを[ＯＮ]にする	21ページ
		バッテリパックとパワーケーブルの接続不良	→バッテリパックの取り付けを確認する	16ページ
		バッテリパックの充電不足	→充電する	16ページ
		バッテリパック不良	→バッテリパックを交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	警告音がする	ＤＣパワーユニットの保護機能が作動	→電源を一旦[ＯＦＦ]にし、再度[ＯＮ]にする	21ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	メインパワーランプが点滅する	ＤＣパワーユニットの保護機能が作動	→電源を一旦[ＯＦＦ]にし、再度[ＯＮ]にする	21ページ
		電源投入時に走行クラッチが接続されている。	→走行クラッチレバーを[切]にする	20ページ
		ＤＣパワーユニットが高温になっている	→ＤＣパワーユニットが冷えてから電源を一旦[ＯＦＦ]にし、再度[ＯＮ]にする	21ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
ＤＣパワーユニット関連	ＤＣパワーユニットが突然停止する	バッテリパックの充電不足	→バッテリパックを充電する	16ページ
		ＤＣパワーユニットの保護機能が作動	→電源を一旦[ＯＦＦ]にし、再度[ＯＮ]にする	21ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	パワーがない、または加速が弱い	バッテリパックの充電不足	→バッテリパックを充電する	16ページ
		走行Ｖベルトの緩み	→Ｖベルトを調整する	42ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ＤＣパワーユニット周辺からの異音や振動		→販売店へお問い合わせください	
充電器	充電がすぐに無くなる	過負荷	→負荷を減らす	
		過負荷での登坂	→**「傾斜地での積載量に注意」**を参照	6ページ
		使用温度範囲外での運用	→使用温度範囲を確認し、範囲外での使用は行わない	15ページ
		バッテリパックの劣化	→バッテリパックを交換する	
	バッテリパックを充電できない	バッテリパックと充電器の接続不良	→バッテリパックの充電方法を確認	16ページ
		充電器のＡＣケーブルが接続されていない	→ＡＣケーブルとコンセントの接続をを確認	
		バッテリパックの劣化	→バッテリパックを交換する	
		充電器の高温保護機構が作動	→バッテリパックと充電器の接続を確認	
		充電器不良	→販売店へお問い合わせください	
	バッテリパックのアラートインジケータが点滅	バッテリパックの動作不良	→**バッテリパック取扱説明書**を参照	
	バッテリパックのエラーインジケータが点灯または点滅	バッテリパック不良	→**バッテリパック取扱説明書**を参照	
	充電器のエラーインジケータが点灯	充電器の保護機能が作動	→販売店へお問い合わせください	

不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	クラッチをつないでも車体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		Vベルトの緩み	→調整する	42ページ
		その他（上記以外）	→「運転のしかた」の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	23ページ
	クラッチの切れが悪い	Vベルトの調整不良	→調整する	42ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	Vベルトが滑る	Vベルトの緩み	→調整する	42ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	旋回が円滑に行えない	サイドクラッチの調整不良	→調整する	44ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	転輪、スプロケット、遊動輪より不連続音または異常発熱がある。		→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキの効きが悪い	ブレーキの調整不良	→調整する	43ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
クローラ	クローラがスムーズに動かない	クローラの張り調整不良	→調整する	39ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
油圧装置（ダンプ機構）	ダンプしない	油圧作動油不足又は劣化	→補給または交換する	45ページ
		油圧ベルトの張り調整不良	→調整する	46ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

・トラックは平坦な場所に停めてパーキングブレーキをかけ、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

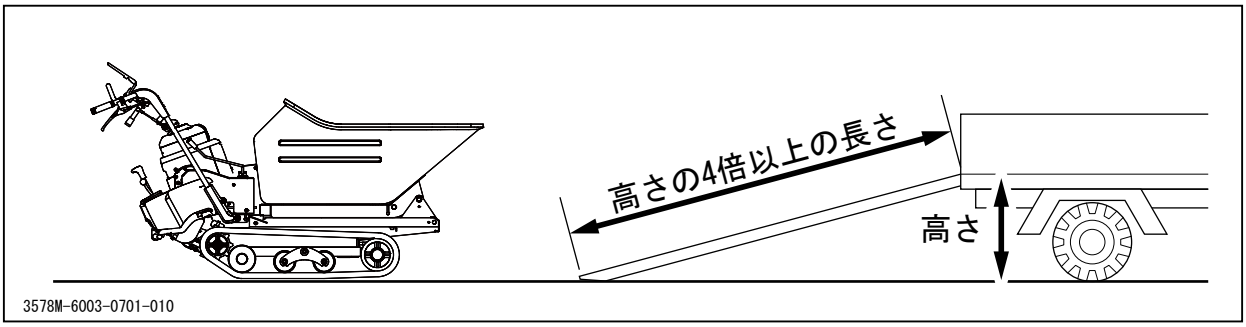
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・積み込み時は前進でゆっくりと積み込んでください。積み下ろし時は後進でゆっくりと積み下ろしてください。荷台とアユミ板の段差を乗り越えるときは特に注意を払ってください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



1. トラックを平坦な場所に停めてパーキングブレーキをかけ、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進でゆっくりと積み込みます。
4. **「駐車のしかた」**（☞28ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。
5. バッテリパックをパワーユニットから取り外し、キーをキースイッチから抜きます。
6. 車両をベルトなどでトラックの荷台に固定します。

吊り下げ要領

⚠ 危　険

・車両を吊り上げたときは、吊り上げた車両の下には絶対に入らないでください。車両が落下して死傷するおそれがあります。

⚠ 警　告

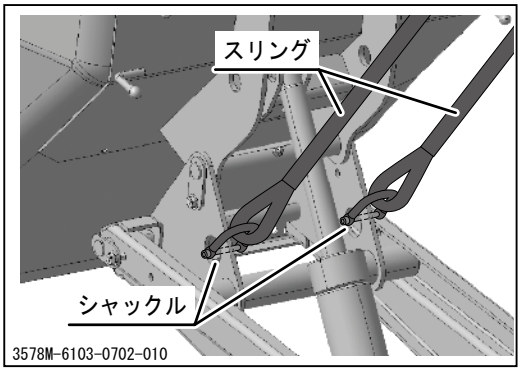
・吊り上げに使用するワイヤーロープ（またはチェーン等）は、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。

・車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。

・必ずエンジンを停止してから車両を吊り上げてください。また、車両を吊り上げた状態でエンジンを始動しないでください。

⚠ 注　意

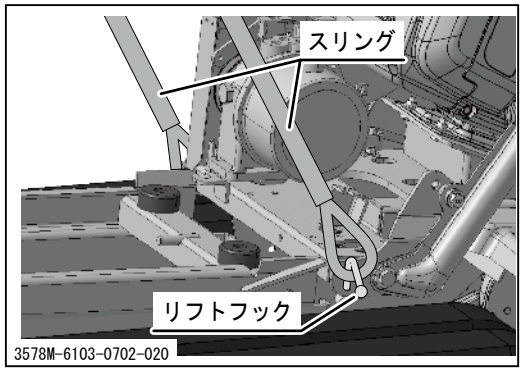
・クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。



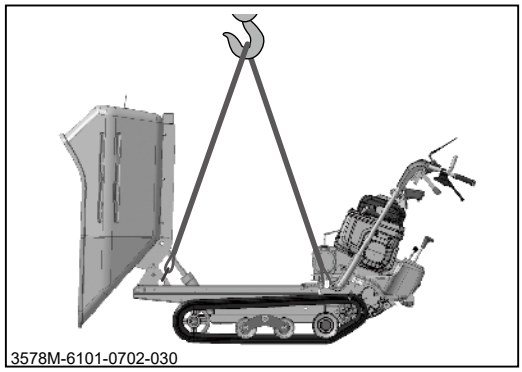
1. 荷台を上げ、落下防止板で固定します。
2. フレーム前側プレートの穴にシャックルを取り付け、ベルトスリング2本を通します。

アドバイス

・シャックルが無い場合は、ベルトスリングのフックを穴に掛けることもできます。その場合は、フックを確実に穴に掛けてください。



3. さらに車両フレーム後方のリフトフックにかけます。



4. スリングの輪の部分をクレーンのフックに目掛けし、車体のバランスに注意しながら吊り上げます。

アドバイス

・車体が水平になるようにフックの位置を調整します。

株式会社 筑水キャニコム

https://www.canycom.jp/

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。